

令和 2 年 9 月 28 日

< ワンポイント・レッスン (実践) >

(小型株と大型株の跛行・その 2 (株価位置))

今回は、小型株と大型株の跛行の 2 回目です。今回は、跛行を小型株と大型株の週間株価上昇率の銘柄分布で比較しました。13 週移動平均乖離率なども同様に比較すれば、強弱が明確になります。今回は、株価位置で比較してみましょう。ちなみに「株価位置」は、設定した期間における高値・安値のレンジの中でどの%水準に株価が位置するか表すものです。波動形成の中で直近時点の株価がどこに位置するのか計算しているのがポイント。下記の東証小型株指数のグラフの中に 0~100 までの目盛(フィボナッチ級数)がありますが、これとは別に、直近株価がそのどこに位置するのかをみるのと同じになります。筆者は 80%以上を波動の高値圏、20%以下を安値圏としています。(フィボナッチについては別途解説)。

戻って上表、小型株は 80%以上に 519 の銘柄(31%)、20%以下には 114 銘柄 (6.8%)。大型株では株価位置 20%以下の安値圏に 12%、日経平均採用銘柄では同 14.2%あります。物色に跛行がどの程度あるかがわかると思います。

(東証第一部市場、規模別・株価位置) 20200925

(銘柄数、%)

| | 38 週・80以上 | 比率 | 38 週・20以下 | 比率 | 合計 |
|--------|-----------|------|-----------|------|------|
| 大型株 | 27 | 26.0 | 12 | 12.0 | 100 |
| 中型株 | 125 | 31.6 | 36 | 9.1 | 396 |
| 小型株 | 519 | 31.0 | 114 | 6.8 | 1674 |
| 参：日経平均 | 52 | 23.1 | 32 | 14.2 | 225 |

(小型株指数と大型株指数の相対比較)



All Copyright © ゴールデン・チャート社

注：上記グラフ下段の赤色折れ線グラフは 13 週、青色は同 26 週弾性値。